

# 平成20年度実績評価書要旨

評価実施時期：平成20年8月

担当部局名：職業能力開発局能力評価課

<p>施策名</p>	<p>技能継承・振興のための施策を推進すること  (V-3-1)</p>	<p>政策体系上の位置付け  基本目標V 労働者の職業能力の開発及び向上を図るとともに、その能力を十分に発揮できるような環境整備をすること  施策目標3 「現場力」の強化と技能の継承・振興を推進すること</p>																		
<p>施策の概要</p>	<p>我が国の産業競争力の基盤となる高付加価値製品の生産、質の高いサービスの提供のために不可欠な「現場力」（ものづくりの現場をはじめさまざまな現場における実践的な経験に裏打ちされた技能・技術、問題解決能力、管理能力）やそれを支える人材の育成・確保を図るための取組を総合的に推進する。</p>																			
<p>施策に関する評価結果の概要と達成すべき目標等</p>	<p>【評価結果の概要】 (現状分析(施策の必要性)) 2007年以降数年間は、団塊世代の大量退職により高度なものづくり技能が喪失されるいわゆる「2007年問題」が懸念されている。製造業の事業所のうち46.2%が、団塊世代の退職などが技能継承上問題があるとしており、「問題がある」とする事業所のうち技能継承の取組を行っているが、対応上になんらかの問題があるとする事業所は83.1%に上っている(厚生労働省「能力開発基本調査」(2007年))。 このため、団塊世代の大量退職に備え、各企業における技能継承が円滑に進むよう、実効性のある施策を展開する必要がある。 また、若年層のものづくり離れが問題となっており、製造業における新規学卒入職者数(2005年)は18万5百人と前年に比べ20.1%増加したが、ピーク時である1992年の34万3百人の約半分(53.0%)と、依然として低い水準に留まっている(厚生労働省「雇用動向調査」)。 このような中で、平成19年11月に開催された2007年ユニバーサル技能五輪国際大会は技能五輪国際大会と国際アジリンピックが史上初めて同時開催されたものであるが、両大会共に日本選手団が好成績を収めるとともに、来場者数も予想を大きく上回り、ものづくり技能の魅力や重要性を多くの国民に認識してもらう契機となった。今後は、この技能尊重気運を一過性のものとせず、ものづくり技能の魅力や重要性に対する認識をさらに高め、若年者の就業意欲の喚起や円滑な技能の継承といった、具体的な成果につなげていくことが重要である。</p> <p>(有効性) 若年者向けである3級技能検定の受検者数が目標値を上回る水準(速報値)を維持しており、技能の重要性、必要性についての啓発の推進を図るための技能啓発等推進事業など当該施策は技能の振興及び技能継承に有効であると評価できる。</p> <p>(効率性) 技能の重要性、必要性についての啓発の推進を図るための技能啓発等推進事業など前年同様の事業を展開する中で、3級技能検定の受検者数が増加していることから、より効率的に事業を実施できたと評価できる。</p> <p>(総合的な評価) 3級技能検定の受検者数が目標値を上回り、毎年増加していることは、ものづくり企業の次代を担う若年者が増加していると考えられることから、技能継承・振興のための施策を推進するという施策目標を達成する上で有効かつ効果的な施策であると評価できる。</p> <p>(評価結果の分類)</p> <table border="1" data-bbox="384 1693 1315 1984"> <tr> <td colspan="2">2 評価結果への政策への反映の方向性</td> </tr> <tr> <td>i</td> <td>施策目標の終了・廃止を検討(該当する場合に○)</td> </tr> <tr> <td>ii</td> <td>施策目標を継続(該当する場合に次のいずれか1つに○)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(イ) 施策全体として予算規模の縮小等の見直しを検討</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ロ) 見直しを行わず引き続き実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(ハ) 施策全体として予算の新規要求、拡大要求等の見直しを検討</td> </tr> <tr> <td>iii</td> <td>機構・定員要求を検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">(理由)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">施策目標及び個別目標のすべてが目標を達成しており、有効であると評価できる。また、2007年ユニバーサル技能五輪国際大会によりもたらされた技能尊重気運の醸成によって、より効率的に施策を実施することが可能になるため。</td> </tr> </table>		2 評価結果への政策への反映の方向性		i	施策目標の終了・廃止を検討(該当する場合に○)	ii	施策目標を継続(該当する場合に次のいずれか1つに○)		(イ) 施策全体として予算規模の縮小等の見直しを検討		(ロ) 見直しを行わず引き続き実施		(ハ) 施策全体として予算の新規要求、拡大要求等の見直しを検討	iii	機構・定員要求を検討	(理由)		施策目標及び個別目標のすべてが目標を達成しており、有効であると評価できる。また、2007年ユニバーサル技能五輪国際大会によりもたらされた技能尊重気運の醸成によって、より効率的に施策を実施することが可能になるため。	
2 評価結果への政策への反映の方向性																				
i	施策目標の終了・廃止を検討(該当する場合に○)																			
ii	施策目標を継続(該当する場合に次のいずれか1つに○)																			
	(イ) 施策全体として予算規模の縮小等の見直しを検討																			
	(ロ) 見直しを行わず引き続き実施																			
	(ハ) 施策全体として予算の新規要求、拡大要求等の見直しを検討																			
iii	機構・定員要求を検討																			
(理由)																				
施策目標及び個別目標のすべてが目標を達成しており、有効であると評価できる。また、2007年ユニバーサル技能五輪国際大会によりもたらされた技能尊重気運の醸成によって、より効率的に施策を実施することが可能になるため。																				

【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】

施策目標に係る指標 (達成水準/達成時期) *【 】内は目標達成率(実績値/達成水準)						
		H15	H16	H17	H18	H19
1	3級技能検定の受検者数(単位: 人) (前年度実績(141,102人) 以上/平成19年度)	72,306 【119.9%】	78,337 【108.3%】	105,349 【134.5%】	141,102 【133.9%】	156,439 【110.9%】
(調査名・資料出所、備考) ・中央職業能力開発協会及び職業能力開発局調べによる。						

	施政方針演説等	年月日	記載事項(抜粋)
関係する施政方針演説等内閣の重要政策(主なもの)	○職業能力開発促進法及び中小企業における労働力の確保及び良好な雇用の創出のための雇用管理の改善の促進に関する法律の一部を改正する法律案に対する付帯決議	平成18年5月11日参議院厚生労働委員会、6月9日衆議院厚生労働委員会)	・「「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」の成功に万全を期すとともに、同大会を契機として、技能とものづくりの振興に積極的に取り組むこと。」